
住宅設備機器特集

| | |
|---------------------------|----|
| 住宅設備機器特集号の発行にあたって..... | 59 |
| ガスファーンエスの開発とその特性..... | 61 |
| 住宅向小形チラーユニットの性能..... | 67 |
| RD-1000 形除湿機の実用特性..... | 73 |
| 中高層住宅用換気扇の開発..... | 78 |
| 住宅用照明器具の工事省力化機構..... | 82 |
| わが国におけるバスルームユニット化の動向..... | 87 |

住宅設備機器特集号の発行にあたって

上野三郎
Saburô Ueno

近年のわが国における経済成長はめざましいものであるが、一方では人口、産業の急激な都市集中を招き、これに伴って大気汚染、騒音、交通渋滞などの都市公害や住宅難、通勤難など大きな社会的ひずみを生じている。1970年代は、これらのひずみを取り除き、人間らしい生活を取りもどす「人間性の回復」が大きな課題の一つになっているといえよう。

所得水準の向上に伴い、「衣・食」を中心とする生活水準は著しく向上したが、「住」については残念ながら現在じゅうぶん満足すべき水準にあるとはいえない。住宅は人間生活の基盤となるものであるため、単にそこに起居することができればよいといったものではなく、明日への活力を養うとともに、人間形成の場としてもふさわしいものでなければならない。このためには、適当な広さとともに、健康的で快適な生活空間を維持できる機能、環境を備えたものであることが必要である。

先般発表された産業構造審議会住宅産業部会の住宅産業政策に関する答申案でも、「今後の住宅は食寝分離を満足させるだけの広さと、厨房設備、給湯設備、浴室、洗面所、さらにはセントラル暖房設備を備えたものであることが必要」と、住宅の質的向上を強調している。このような背景から、従来、「建築」の脇役的存在と考えられ勝ちであった「設備」が住宅の居住水準を決定する重要な要素として、再認識されてきた。

しかし住宅設備の多くは、機器単独としてではなく住宅と一体となったシステムとして完成されて、初めてその機能を発揮できるものであるから、機器相互の調和、バランス、住宅本体との調和がじゅうぶん検討されなければならない。このためには機器メーカー、設備業者、建築業者の融和的なチームワークが必要であり、さらに重要なことは常にそこに住む人にとっての最適化が第一義に考えられなければならないということである。

最近、住宅の工業生産、プレハブ化、あるいは高層化についての論議が盛んに行なわれ、これが積極的に推進されているが、住宅設備においても、住宅生産のこのような動向と足並みをそろえて対処していくことが必要である。まづ当面の問題は、現場施工の省力化、簡易化の追求である。上述のように住宅設備はシステムとしてまとめる現場工事が必要であるが、今後予想される施工技能者の絶対数の不足、施工技術水準の低下をカバーしていくためには、できるだけ工場生産度を高くして、現場工場における負担を軽減していくことが最良の策であり、その代表的な方向の一つが設備のユニット化である。厨房、衛生、給湯、冷暖房設備のユニット化は単に現場施工が容易になるだけでなく、工場生産の割合が高くなるため品質が安定し、また量産体制が整えばコストダウンを図ることが可能になる。しかし顧客の要求の多様性を工場生産の中でいかに消化、解決して

いくかが残された大きな課題である。

次に月並みなことではあるが、新しい機能の創造とその展開にっその努力を傾注することが必要である。生活様式や住宅構造の変化、エネルギーの変遷などに応じて生じる新しいニーズに即応できる研究開発体制を整え、新技術の開発、製品機器のレベルアップ、安全性および信頼性の向上、機能の複合化などに努めたい。

以上住宅設備機器特集号の発行にあたって所感を述べたが、住宅およびこれを取り巻く生活環境の改善に対する需要家の要望に謙虚に耳を傾け、住宅設備機器メーカーの一員として、今後も最大の努力を継続していきたいと念願し、あわせて住宅産業関連分野の健全なる発展を祈念するものである。

(日立製作所取締役 住宅設備事業部長)